**第1号議案：2021年度事業報告**

**基本理念「この地球に住むすべての人々が人間として尊重され、自立し、良い環境の中で平和に暮らして行けることを願っています」**

**問題がますますグローバル化する中で、アーシアンとして今できる役割と意義を確認し事業を進めました。**

**Ⅰ．交流支援事業**

**パキスタン、ラオスへの支援を引き続き行いました。**

**１）パキスタン**

**アルカイールアカデミー職業訓練所支援**

・縫製科の運営費を支援しました。2021年度分として本部より３６万円を送金しました。今後柏ショップより53,000円を支援する予定です。

・国をまたいでの移動ができなかったため、直接話を伺う機会がありませんでした。

　メールや日本ファイバーリサイクル連帯協議会（JFSA)からの報告で現地の様子を知ることとなりました。ロックダウン後に全授業が再開し、縫製科も通常授業が行われています。

・縫製科の女生徒の将来の職業選択の一つになるよう縫製工房と連携し商品開発をすすめました。

**２）ラオス**

**「サワンナケート県農村部土地と自然資源の持続的な利用・管理支援プロジェクト」**

**NPO法人日本国際ボランティアセンター(JVC）支援**

・毎年半期ごと（例年９月）に行っている報告会に代えて生活クラブ虹の街と共催で「ラオス学習会」を開催しました。虹の街全組合員に向けてチラシを配布、参加者は５６名、新規入会が１１名ありました。その場で、現在のプロジェクトは９月に終了したという報告と次期プロジェクトについて説明を受けました。

・JVC国際協力カレンダーの販売に取り組みました。カレンダー販売の収益として９万円を寄付しました。

**Ⅱ．販売事業**

**１）アーシアンショップ柏**

**コロナ禍での厳しい運営環境が続きましたが、広報の充実や魅力的な店舗づくりに取り組み一定の成果を上げることができました。**

1. 取り扱い製品

・オーガニックコットン製品は取扱量を増やすことでリピーターを獲得し、スキンケア製品もサンプル配布などが購買に繋がっています。

・新たな取引先の開拓を含め、積極的な仕入れによる商品の充実が図れました。

２．ショップイベント

・店舗主催の展示イベントやフェアを3回行いました。

３．キャンペーン・募金

・アルカイールアカデミー縫製科支援金は53,000円となりました。

・アレッポ石鹼キャンペーンで1,400円、店頭募金で19,000円をシリア難民支援金として寄付しました。

・アーシアン入会キャンペーンでは1名の入会がありました。

４．生活クラブ虹の街関連

・千葉カタログへの掲載は予定より回数が増えました。デポー展示会出展は23回行い

すべてのデポーで予算を超える売上を達成しました。

・デポー松葉町の再建に協力し展示会をほぼ毎月実施した他、キャンペーンチラシをショップで配布しました。「よってって松葉」の運営やイベントに協力しました。

５．その他関連団体、地域とのつながり

・地域のイベントの多くは中止となりましたが、近隣のショッピングセンターでの出展

　やフェアトレード講座の依頼があり、新たな繋がりもできました。

・引き続きJFSAのカルハナ事業に協力し、アルカイールアカデミー縫製工房のブラウスを２０枚販売しました。

６．広報

・初めてショップカラーチラシを作成し近隣への配布を行った他、ビル入り口の立て看板をリニューアルしました。

・地域情報誌「BE-COM」（毎月8500部配布）への記事掲載を継続し、知名度アップと新たな顧客獲得に効果を発揮しました。その他イベント情報が地域の媒体に３回掲載されました。

・SNSは定期的な投稿を継続しているものの、活用のためのスキルアップには課題が残りました。

７．店舗運営

・スタッフそれぞれがスキルアップしたことで安定した店舗運営につながりました。

・外部研修はできませんでしたが、ミーティング内で様々な研修を実施しました。

**２）アーシアンちば**

1. アルカイールアカデミー

・アルカイールアカデミーの縫製工房との商品開発は、好評だった「外でも着られるパジャマ」新色２色を発注しました。前回の製品で気になった点の改良をお願いするなど、

お互いが納得できる製品にするためにJFSAを介して、連絡を取り合いました。

・余剰金より６０万円をアルカイールアカデミー縫製科の支援のための積立金とします。昨年分と合わせ、積立金は１００万円とします。

1. 生活クラブ虹の街

・千葉カタログで食品と雑貨を毎月取り扱い、アレッポの石鹸やショコラマダガスカルな

　 ど販売数が安定している商品が増えました。

・カタログ紙面や商品に同封しているリーフレット等で商品の背景や物語を伝えました。

　 取り扱っている製品によっては予想を超える反響があり、千葉カタログの宣伝効果を再

　確認しました。

・センター・デポー展示会出展、デポーでの常設販売・注文販売は引き続き行いました。

1. BOX・地域

・毎年恒例となっているBOX・イベントは昨年同様中止や、縮小されての開催となりました。

・千葉市から委託をうけた「千葉市コミュニティセンターまちづくり共同事業体」が運営

　 する「土気あすみが丘プラザ」のフェアトレードカフェで通年BOXを置いてもらうこと

　 になりました。

1. 外部学習会

・コロナの影響でオンライン開催となりましたが、シャンティ国際ボランティア会の「

　 アフガニスタンを生きる女性たち～暮らしを支える手仕事～」やパルシックの「～知る

繋がるミャンマー連続講座」に参加しました。

1. キャンペーン

・「給食支援キャンペーン」では66,000円、「アレッポの石鹸キャンペーン」では28,600

円を寄付できました。

1. その他

・千葉ブロックのコミュニティ「渚シネマ」と共催で映画上映を２回行いました。

　 その際にJVCスーダン/南スーダン事業の担当者とバングラデシュでストリートチルドレンを支援する「エクマットラ」の代表からお話をしていただきました。

・新しく「アフガンサフラン」のアフガニスタンのドライフルーツを取り扱うことが出来

　 ました。

**Ⅲ　啓発・広報事業**

**１）啓発**

・昨年同様コロナ禍での事業ではありましたが、外部イベントや一般化したオンライン開

催イベントにも積極的に参加し、より多くの人に活動を知ってもらうことができました。

・生活クラブ虹の街との共催による「ラオス学習会」はJVCの協力を得て、生活クラブ組合員にもラオスをより深く知ってもらう機会となり、またアーシアン会員増に繋げることができました。

・「渚シネマ」との共催企画は上映後の講演をアーシアンが関わることで、より一層充実した映画会となり、自らの学びの場にもなりました。

**２）広報**

・レター

年３回（８月、１１月、３月）発行しました。

　 ８８号（３月発行）の配布から生活クラブの配達便に同封して頂くことになりました。

・リーフレット

　 カラーのリニューアル版が１０月に完成し、多くの機会で活用しました。

・ホームページ

今年度見直し作業が終了し、新しい情報を更新出来る様になりました。

・生活クラブ情報誌「コルザ」に２回掲載しました。

・フェイスブック、インスタグラム

これらのSNSを活用することにより、広く情報発信することができました。

**Ⅳ．関連団体との協力**

・生活クラブ千葉グループ

　 生活クラブ虹の街には多岐にわたり協力いただきました。

　 千葉グループ会議に出席しました。

・JFSA

　 アルカイ－ルアカデミーや縫製工房の状況など情報共有に協力いただきました。

　縫製工房の商品開発でも引き続き連携を続けています。

　 カルハナ事業に協力し、柏ショップで商品の販売を行いました。

・JVC

　 生活クラブ虹の街と共催の「ラオス学習会」の講師をお願いしました。

　 例年通り、カレンダーの販売を行いました。

**Ⅴ　組織運営**

**1）理事会の開催と運営委員会、事業ミーティング**

・理事会・運営委員会はオンラインも含め予定通り実施しました。

・事業ミーティングは販売ミーティング、レター、リーフレット編集会議が実施されました。

・理事の組織担当を配置しましたが、まだ模索にとどまっています。

**2）会員拡大と仲間づくり**

・１０月に実施した「ラオス学習会」開催により１１名の加入が得られました。

・個人会員期首　３３９名、期末　３４３名

・団体会員期首　８団体、期末　８団体、　団体の加入はありませんでした。

・新しいリーフレット作成、ホームページのリニューアルなどを活用しましたが、大きな加入にはつながってはいません。